

POPEYE, Cui Jie, Text/Ryohei Nakajima, P98, Issue 836, December 2016



098

MY FAVORITE ART

1. Vision Underneath the Overpass (2014). 2. 彫像と建物の遠近感の交錯を描いた「Building of Doves」(2014). 3. イギリスのCASS建築プロジェクトに採られ、2を立体化した「Pigeon House」(2016).

24

Cui Jie
from China

「ポパイ」と親交のある香港の雑誌「milk X」編集部が「注目のアーティストを紹介してほしい」とお願いしたところ、真先に挙げてきたのがツイ・ジェの名前だった。「ポスト'80s」を代表する作家の一人で、アメリカのウォール・ストリート・ジャーナルで「中国美術界の新星」として紹介されたこともあるという。彼女がインスパイアしたのは、オーソン・ウェルズの映画。複数の光景が重ねられ、あらゆる箇所にフォーカスが合うことで不思議な世界が立ち現れている様子に興味をそそられ、油彩画で技法を模索することになった。題材は、変わりゆく中国の都市環境。大小様々な建物が乱立し、奥行きが深くなるにつれて変化する都市の風景を作品化しようと考えた。これまでの中国人作家が自国の都市の風景を描くと、ノスタルジックに胡弓のような路地を題材にした「土産物」的な絵が多かったが、彼女は全く違う。さらに、街の広場に立つ銅像やオブジェが、背景の建物とちぐはぐに遠近感を混乱させる様子に面白さを感じ、その光景を彫刻作品にしてみました(写真3)。中国新世代の未知な可能性を感じさせるアーティストだ。

ツイ・ジェ | 1984年、中国・上海生まれ。2006年に中国アカデミー・オブ・アートを卒業。世界的に有名なキュレーターのアリス・ウルリッヒ・オプリスに認められて企画展に参加するなど、国内外で作品発表を続ける。

1. 飲みかけのアイスコーヒー、マドラー、ガムシロップの容器に至るまですべてガラス。2. 爽快感のあるラムネ菓子容器。3. 2メートルボトルの重量約6kg、もっと大きな作品も考えているとのこと。

23

Ryohei Usui
from Japan

「飲めません」って書いておいてほしいほどのリアリティ。おわかりいただけるだろうか？ 気泡が閉じ込められたプラスチックカップにペットボトル。これはすべてガラスでできている！ 再現度の高さはもちろん、モノとしての魅力がすごい。時が止まったような錯覚さえ起き、ずっと見つめていたいこの作品は、臼井良平による作品。身近にあるものを題材に、見る者の視点を変えてくれる。この超リアルなシリーズは、パートドヴェールと呼ばれる手法で作られる。粘土で作った原型を耐火石膏で型取って鋳型を作り、そこにガラスの粉に糊を加えて練ったものを詰めて焼くことで、吹きガラスでは再現できない形状も作ることができる。一般的にはそれを冷やして磨けば完成なのだが、彼は数週間もの時間を研磨に捧げることで、ガラスを美術作品へと昇華させている。その作業のせいで毎日筋肉痛らしい(笑)。李朝時代の壺に幼少期から興味があったという臼井。この作品を作った経緯を聞くと、「街で猫よけのペットボトルを見たときに『彫刻』だと思った」とさらりと返してくれ、思わずハッとさせられた。すべては日常を少し違った角度から観察する、彼の視点があるってこそこの産物なのである。

うすい・りょうへい | 1985年、静岡県生まれ。無人島プロジェクト所属。異なるメディアを使い、自分の身近なものをテーマにした作品を発表。美学校の一番の思い出しは臨時講師で工務もさんが来たこと。

1. ドイツで行われた「The Greatest Show on Earth」の公演にて。2. 写真家、ホンマタカシとの共同舞台作品「顔を残すと雨が降る」。3. 音楽家、足立野矢とのコラボ作品。足立の声を介した放電を顔に受ける。

22

contact Gonzo
from Japan

ベシッ……バンッ！ 肉体の衝突する激しい音。ハアハアと聞こえる生々しい息遣い。ケンカかまたはまた格闘技か？ 勢よくぶつかり合ってはまた離れて、殴ったと思ったら抱き合い、取っ組み合いのように地面に転がったりする。手に汗を握らせるような、でもどこか不思議なダンスに見えなくもない。それがコンタクトゴンのパフォーマンスアートだ。即興で生まれるパフォーマンスは、脚本なし、二度と同じことが起こらないし、展開は常に予測不可能。公演によって森の中、大きな体育館、椅子がたくさんあるような会議室とシチュエーションも変わり、その都度新しい。メンバーのほとんどがダンサーでもなく、リハールもしない。何より「即興」を大切にすれば「ゴミのようなものでも、なんの練習をしないおじさんでも、面白いもの、美しい出来事は作ることができる」と語る。謎めいた響きの名前は、1970年代に生まれた「ゴンゾ・ジャーナリズム」という、型破りなジャーナリズム一派の呼称に、コンタクト(接触)を付け加えたもの。枠にはまらず毎回新しいパフォーマンスを見せてくれる彼ら。まさに名は体を表すのだ。

コンタクトゴンゾ | 2006年に塚原悠也と元メンバーの塩屋俊が結成。現在のメンバーは主にNAZE、松見拓也。三ッ原悠也とリーダーの塚原の4人で活動する。次回は12月3日に大阪の中央公会堂でのイベントに参加予定。

photo: Ryoosuke Iwamoto (portrait 23) text: Mayumi Yamase (22), Yu Kokubun (23), Ryohei Nakajima (24)